

宗四小だより 12月号

志木市立宗岡第四小学校
志木市上宗岡 1-1-2
048-473-5250
平成27年12月 1日

学校教育目標 ○考える子ども ○思いやりのある子ども

○はたらく子ども ○じょうぶな子ども

和の心



校長 坂口 栄二



玄関のクリスマス飾り

早いもので、今年もあと1カ月となりました。多くの行事があった2学期もまとめの月を迎えました。平成27年にやり残したことがないようしっかりとまとめをしたいものですね。

「日本は和の国、和の心を忘れれば倒産する」これは、昭和の大経営者である松下幸之助氏の言葉です。会社経営のみならず、様々な場面でも通ずる言葉だと思えます。

「和の心」とは？

日本の食べ物を「和食」、着物などの日本の着るものは「和服」等と言います。「日本は和の国」ということは異論のないところだと思います。

では、「和」とはどんな意味でしょうか。

国語辞典には「1 仲よくすること。互いに相手を大切にし、協力し合う関係にあること」「2 仲直りすること。争いをやめること」「3 調和のとれていること」「4 ある数や式に他の数や式を加えて得られた結果の数や式」の4つが記述されています。

つまり、「和の心」とは「争いをせず、互いに相手を大切にし、協力し合える心」ということができるのではないのでしょうか。

古くは、聖徳太子のつくった『十七条の憲法』の第1条に「和をもって貴し」とあります。「人間は、お互いに仲良くすることが大切であって、争いや戦争などしてはならない、和の精神を貴び、平和を愛好しなくてはならない」ということを定めていました。昔から、日本人には和の心が受け継がれているといえます。

松下氏は、次のような話をしています。

日本人は、もともと、和の精神を民族の伝統として持っているものであり、そのことを忘れてはならぬ。長い歴史を通じて受け継がれてきた「和を貴ぶ精神」、それをはっきり認識し、その上に立って、平和というものを求めていくことが、きわめて大切ではないかと思うな。

そやから、経営をしていくときも“和”ということ、“和の精神”ということを根底にして進めていかんとダメや。社員の知恵を集める、尊重する。そして、助け合うとか、思いやりのある会社にするとか、職場にするとか、そういうことに意を持ちいんといかん。それが、日本の指導者、経営者が忘れたら、会社は、潰れるな

日本が伝統として培ってきた、「和の心」を全員がもち、集団を形成することがよい集団をつくっていけると考えます。

現状と未来に向かって！

しかし現状は、自分のことしか考えない人が増えたり、相手を思いやれない言葉がたくさん飛び交ったりしています。日本の古き良き伝統が無くなってきているように感じます。

もちろん世界に目を向けると、個人を主張する必要性もあります。いわゆる個人主義の考えも持たなければなりません。しかしそれだけでは、よい集団ができません。

人は集団の中で生活しています。日本人のよさである「集団における秩序や調和、また礼儀を重んじること」を生かしていかなければならないと考えます。

諸外国でも、日本の「和の心」は日本の美徳として、様々な場面で取り上げられています。私たち日本人は自信をもって、「和の心」を世界に発信していかなければなりません。

そのためには、「和の心」を大切にしながら、個人を主張できる子どもたちを育てていかなければなりません。

私たちは、互いに相手を大切にするとともに、協力し合い、集団行動でのルールを守り、決して他人に迷惑をかけない子どもたちを育てるために、「和の心」を大切にしていきます。

今後も、家庭・地域の皆様のご支援・ご協力をお願いいたします。